

## 親の介護は50,60歳代、夫や妻は70,80歳代の老々介護

### 男性の介護者も3割近い

「介護は嫁の仕事という」古くからの通念は変わり、介護者の20%弱になりました。代わって男性が、主な介護者の28.9%と約3割を占めるようになりました。配偶者による老々介護と、50～60歳代の実の子供の介護者が共に37%を占め、両者併せて74%と4分の3になりました。高齢者夫婦世帯が増えるなかで配偶者を介護する男性や、親を介護する男性が増えています。

65歳女性の平均余命が89歳（長野県）と寿命が長くなるなかで、介護を受ける方の多くは80歳、90歳代になりました。そこで介護をする配偶者の年齢も当然高くなり、70歳以上の介護者が36%と3人に1人となり、80歳以上という高齢の方も16%います。年老いてから配偶者の介護をする老々介護世帯ばかりではなく、共に要介護者の夫婦世帯、共に認知症の認知介護世帯の増えていることが大きな問題になっており、安心して暮らせる介護制度や福祉制度が望まれます。

